



私は1988年7月から約750万人に対して80年間、JICA青年海外協力隊の「養殖隊員」としてパプアニューギニアに派遣された。

ニューギニア島の東半分を占める国で、当時、人口が強く、良くも悪くもこの国の根幹を成している。最近になって新たな部族が発

JICA
だより



パプアニューギニア
(1988～90年派遣)
山本 勲さん(60)
山口県周防大島町

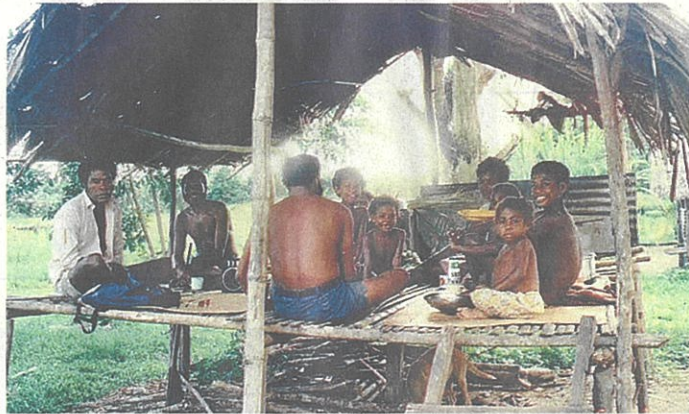
「幸せとは」

見されたり、呪術が行われていたり、原始時代と現代が混在している国だ。

私は州政府の水産局に配

自問の2年

属され、エビの種苗生産を担うことになっていた。だが、当時はそんな状況ではなく、派遣から半年後には



協力隊員時代に、最初に暮らした電気も水道もない村での食事風景

「予算が取れなかったから帰ってもいいよ」と言われる始末。そういうわけにもいかず、紆余曲折の末、エビトロール船に混団に空き巣に入られたり、寸借詐欺に遭ったりもした。彼らの暮らしは決して豊かではないが、彼らとの生活から「幸せな暮らしとはなんだろう」と考えさせられた2年間でもあった。

一方で、「ラスカル」と呼ばれる悪事を働く若者集団に空き巣に入られたり、寸借詐欺に遭ったりもした。彼らの暮らしは決して豊かではないが、彼らとの生活から「幸せな暮らしとはなんだろう」と考えさせられた2年間でもあった。

帰国後は郷里の周防大島町の役場に勤めた。多くのハワイ移民を輩出した町で、1963年に「姉妹島」となったカワイ島と交流が続いている。協力隊での経験がこの交流にも大いに役立ったと思っている。

最初に住んだ村の人たちはほとんど自給自足の生活をしていて、親しくなると言葉もままならない私を心配して、話し相手に子どもを